

ア	.	私	が	携	わ	っ	た	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	の	概	要											
ア	-	1	.	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	の	特	徴															
	私	の	勤	務	す	る	会	社	は	、	従	業	員	2	0	0	名	程	度	の	S	I	(	シ			
ス	テ	ム	イ	ン	テ	グ	レ	ー	ト	)	企	業	で	、	事	業	の	約	半	分	は	顧	客	か			
ら	の	受	託	開	発	で	あ	る	。	私	は	県	や	市	町	村	の	シ	ス	テ	ム	開	発	を			
行	う	部	署	に	所	属	し	、	約	5	年	前	よ	り	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	の	管	理	を			
任	さ	れ	て	い	る	。																					
	今	回	私	が	担	当	し	た	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	は	、	現	在	A	市	と	な	っ	た			
「	町	村	合	併	に	伴	う	納	税	シ	ス	テ	ム	の	再	構	築	」	で	あ	る	。	4	町			
村	の	合	併	で	、	業	務	の	流	れ	や	メ	ー	カ	・	操	作	方	法	の	違	う	各	町			
村	の	納	税	シ	ス	テ	ム	よ	り	デ	ー	タ	を	抽	出	し	、	新	し	く	構	築	し	た			
納	税	シ	ス	テ	ム	へ	移	行	す	る	。																
	体	制	と	し	て	は	、	シ	ス	テ	ム	構	築	、	デ	ー	タ	移	行	、	イ	ン	フ	ラ			
整	備	の	3	チ	ー	ム	に	分	か	れ	、	開	発	要	員	は	ピ	ー	ク	時	で	20	名	、			
総	開	発	工	数	は	1	8	0	人	月	、	開	発	期	間	は	1	1	ヶ	月	で	あ	る	。			
	全	体	工	数	に	対	し	開	発	期	間	が	短	い	点	、	総	人	口	5	万	人	に	も			

満	た	な	い	過	疎	地	域	の	合	併	で	、	極	め	て	低	予	算	な	点	が	特	徴	で
あ	る	。	私	は	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	マ	ネ	ー	ジ	ャ	と	し	て	参	加	し	た	。	
ア	ー	2	。	業	務	パ	ッ	ケ	ー	ジ	を	採	用	し	た	目	的							
	今	回	の	シ	ス	テ	ム	構	築	に	は	、	我	社	の	関	連	企	業	B	社	が	開	発
し	た	納	税	パ	ッ	ケ	ー	ジ	シ	ス	テ	ム	(	以	下	、	新	パ	ッ	ケ	ー	ジ	)	を
採	用	す	る	事	と	し	た	。	そ	の	理	由	は	以	下	の	と	お	り	で	あ	る	。	
・	新	パ	ッ	ケ	ー	ジ	の	操	作	仕	様	が	全	国	標	準	を	採	用	し	て	お	り	、
	業	務	プ	ロ	セ	ス	が	改	善	さ	れ	る	。											
・	開	発	期	間	が	短	縮	で	き	、	合	併	当	日	ま	で	に	納	期	を	間	に	合	わ
	せ	る	こ	と	が	可	能	と	な	る	。													
・	旧	4	町	村	の	う	ち	3	町	で	B	社	の	旧	納	税	シ	ス	テ	ム	(	以	下	、
	旧	シ	ス	テ	ム	と	い	う	)	を	導	入	し	て	お	り	、	デ	ー	タ	移	行	が	容
	易	な	点	と	保	守	が	し	や	す	い	点	。											
・	A	市	の	予	算	内	に	納	め	る	こ	と	が	で	き	る	。							
ま	た	本	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	で	は	、	合	併	当	日	ま	で	に	本	稼	働	す	る	事
が	絶	対	条	件	と	さ	れ	て	い	た	。													

イ	.	外	付	け	プ	ロ	グ	ラ	ム	の	概	要													
イ	ー	1	.	外	付	け	プ	ロ	グ	ラ	ム	が	必	要	と	な	っ	た	理	由					
	合	併	後	の	A	市	は	,	1	つ	の	町	役	場	を	本	所	と	し	,	残	り	3	町	
	を	支	所	と	す	る	。	そ	し	て	各	所	を	専	用	回	線	で	結	ぶ	予	定	だ	。	
	そ	う	い	っ	た	環	境	の	中	で	新	パ	ッ	ケ	ー	ジ	に	対	す	る	要	件	定	義	を
	と	め	て	い	く	事	と	な	っ	た	。														
	要	件	定	義	の	序	盤	は	順	調	に	進	ん	だ	。	し	か	し	,	終	盤	に	差	し	
	か	っ	た	頃	に	問	題	が	発	生	し	た	。	新	パ	ッ	ケ	ー	ジ	の	標	準	機	能	で
	A	市	が	要	求	し	て	い	る	支	所	機	能	の	一	部	が	実	現	で	き	な	い	事	が
	明	し	た	。	そ	の	原	因	は	,	セ	キ	ュ	リ	テ	ィ	等	の	問	題	に	よ	り	,	各
	所	で	は	新	パ	ッ	ケ	ー	ジ	の	全	機	能	を	使	用	で	き	な	い	た	め	で	あ	
	る	。																							
	A	市	に	は	合	併	時	に	住	民	と	の	公	約	が	あ	り	,	合	併	後	で	も	各	
	に	お	い	て	合	併	前	と	同	等	の	サ	ー	ビ	ス	を	行	う	必	要	が	あ	る	。	
	も	し	,	支	所	機	能	の	一	部	が	実	現	で	き	な	い	場	合	に	は	,	こ	の	公
	に	反	す	る	事	態	と	な	る	。															

村  
ま  
掛  
は  
判  
支  
所  
約

私	は	、	各	チ	ー	ム	の	リ	ー	ダ	に	対	し	、	新	パ	ッ	ケ	ー	ジ	の	標	準	機		
能	で	不	足	し	て	い	る	部	分	の	洗	い	出	し	と	、	外	付	け	プ	ロ	グ	ラ	ム	を	
開	発	す	る	場	合	に	期	間	、	費	用	、	品	質	に	ど	の	様	な	影	響	が	出	る	か	
を	調	査	す	る	よ	う	に	指	示	を	出	し	た	。												
イ	ー	2	・	利	用	部	門	と	合	意	し	た	経	緯	と	内	容									
各	チ	ー	ム	の	調	査	結	果	に	よ	る	と	、	公	約	の	住	民	サ	ー	ビ	ス	を	提		
供	す	る	に	は	、	合	併	当	日	ま	で	に	稼	働	し	な	け	れ	ば	な	ら	な	い	機	能	
が	い	く	つ	か	あ	る	。	し	か	し	、	こ	れ	ら	の	機	能	の	全	て	を	外	付	け	プ	
ロ	グ	ラ	ム	で	実	現	す	る	場	合	、	期	間	、	費	用	、	標	準	機	能	へ	の	影	響	
範	囲	が	大	き	く	、	と	て	も	合	併	当	日	ま	で	に	は	間	に	合	わ	な	い	。	私	
は	、	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	の	制	約	条	件	を	満	足	さ	せ	る	た	め	に	機	能	追	加	
へ	の	対	応	策	を	検	討	し	た	。																
ま	ず	、	合	併	当	時	ま	で	に	必	要	な	機	能	に	つ	い	て	、	運	用	面	で	工		
夫	す	る	な	ど	し	て	新	パ	ッ	ケ	ー	ジ	標	準	機	能	で	実	現	で	き	な	い	か	の	
検	討	を	行	っ	た	。	標	準	機	能	で	対	応	で	き	れ	ば	、	開	発	工	数	が	削	減	
さ	れ	る	か	ら	で	あ	る	。	そ	の	結	果	、	課	税	処	理	、	お	よ	び	納	付	書	発	
																									800	

行	処	理	機	能	に	つ	い	て	は	、	新	パ	ッ	ケ	ー	ジ	の	標	準	機	能	を	用	い	て
本	所	で	行	う	方	が	効	率	良	く	、	A	市	の	公	約	に	も	影	響	が	な	い	こ	と
が	判	明	し	た	。	し	か	し	、	残	り	の	機	能	は	外	付	け	プ	ロ	グ	ラ	ム	で	の
対	応	が	必	要	で	、	合	併	当	日	ま	で	に	全	て	の	機	能	を	稼	働	さ	せ	る	事
は	難	し	い	と	判	断	し	た	。																
	そ	こ	で	、	外	付	け	プ	ロ	グ	ラ	ム	で	開	発	す	る	機	能	に	優	先	順	位	を
つ	け	、	段	階	的	リ	リ	ー	ス	で	対	応	す	る	案	を	検	討	し	た	。				
	段	階	的	リ	リ	ー	ス	を	行	う	こ	と	で	本	稼	働	日	ま	で	必	要	な	機	能	は
全	て	実	装	で	き	A	市	の	公	約	を	遵	守	す	る	事	が	可	能	と	な	る	。		
	私	は	、	こ	れ	ら	の	内	容	を	ま	と	め	て	、	A	市	側	へ	と	の	交	渉	の	場
で	提	案	を	行	っ	た	。																		
	交	渉	で	A	市	側	は	“	住	民	へ	の	公	約	”	、	“	合	併	当	日	の	本	稼	
働	”	は	絶	対	条	件	と	一	点	張	り	で	交	渉	は	難	航	し	た	。					
	そ	こ	で	私	は	、	ま	と	め	て	お	い	た	資	料	を	提	示	し	、	納	税	シ	ス	テ
ム	の	機	能	、	運	用	時	期	、	そ	し	て	運	用	手	順	に	沿	い	、	各	フ	ェ	ー	ズ
で	は	ど	の	標	準	機	能	や	外	付	け	プ	ロ	グ	ラ	ム	を	使	用	す	る	か	を	詳	細

に	説	明	し	た	。	も	ち	ろ	ん	A	市	側	に	不	利	な	条	件	で	は	無	い	こ	と	も
説	明	し	た	。	す	る	と	A	市	側	も	納	税	処	理	と	シ	ス	テ	ム	の	関	係	や	内
容	が	理	解	で	き	、	態	度	を	軟	化	さ	せ	て	い	っ	た	。							
	そ	の	結	果	、	我	社	が	提	案	し	た	標	準	機	能	で	の	対	応	と	、	外	付	け
プ	ロ	グ	ラ	ム	の	段	階	的	リ	リ	ー	ス	を	A	市	側	よ	り	合	意	を	得	る	事	が
で	き	た	。																						
	ま	た	、	A	市	側	か	ら	の	要	望	と	し	て	、	“	新	パ	ッ	ケ	ー	ジ	の	バ	一
ジ	ョ	ン	ア	ッ	プ	時	に	は	外	付	け	プ	ロ	グ	ラ	ム	に	極	力	影	響	の	無	い	様
な	仕	組	み	で	開	発	を	行	い	、	ラ	ン	ニ	ン	グ	コ	ス	ト	を	当	初	予	定	の	
1	.	2	倍	以	内	に	抑	え	る	事	”	を	受	け	入	れ	た	。							
イ	ー	3	.	外	付	け	プ	ロ	グ	ラ	ム	の	概	要											
	A	市	と	の	交	渉	の	結	果	、	外	付	け	プ	ロ	グ	ラ	ム	で	実	現	す	る	機	能
は	支	所	で	の	入	金	処	理	、	お	よ	び	納	税	証	明	書	の	発	行	処	理	の	2	機
能	と	な	っ	た	。	一	番	利	用	度	の	高	い	本	所	の	機	能	を	新	パ	ッ	ケ	ー	ジ
の	標	準	機	能	で	行	い	、	各	支	所	で	の	機	能	を	外	付	け	プ	ロ	グ	ラ	ム	で
対	応	す	る	形	と	な	っ	た	。																

ウ	.	目	的	を	達	成	す	る	た	め	の	工	夫	と	そ	の	成	果	及	び	改	善	点		
ウ	-	1	.	目	的	を	達	成	す	る	た	め	の	工	夫										
		今	回	の	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	の	目	的	を	達	成	す	る	た	め	に	は	2	つ	の
課	題	を	ク	リ	ア	し	な	け	れ	ば	な	ら	な	い	。	合	併	当	日	に	本	稼	働	を	
可	能	と	す	る	課	題	と	、	本	稼	働	後	の	仕	様	変	更	時	に	ラ	ン	ニ	ン	グ	
コ	ス	ト	を	極	力	抑	え	る	対	策	を	打	つ	と	い	う	課	題	だ	。					
		ま	ず	、	前	者	の	課	題	に	対	し	て	、	開	発	す	る	外	付	け	プ	ロ	グ	ラ
ム	の	各	機	能	に	使	用	開	始	時	期	や	住	民	公	約	に	絡	む	重	要	性	な	ど	
か	ら	優	先	順	位	を	付	け	、	優	先	順	位	の	高	い	機	能	か	ら	開	発	を	行	
う	事	と	し	た	。	始	め	に	合	併	当	日	よ	り	使	用	す	る	入	金	処	理	を	開	
発	す	る	。	そ	し	て	テ	ス	ト	ま	で	行	い	、	品	質	が	確	保	さ	れ	た	後		
に	、	合	併	後	で	も	年	度	末	ま	で	使	用	す	る	可	能	性	の	低	い	納	税	証	
明	書	発	行	処	理	を	開	発	す	る	。	こ	う	す	る	事	で	、	万	が	一	開	発	に	
遅	延	が	発	生	し	た	場	合	で	も	シ	ス	テ	ム	の	本	稼	働	日	を	遵	守	で		
き	、	優	先	度	の	低	い	機	能	は	本	稼	働	後	に	段	階	的	リ	リ	ー	ス	で	対	
応	で	き	る	と	考	え	た	か	ら	で	あ	る	。												

	次	に	後	者	の	課	題	に	対	し	て	は	、	独	立	し	た	D	B	を	用	意	し	、	
	リ	ア	ル	タ	イ	ム	更	新	を	行	う	設	定	と	し	た	。								
	外	付	け	プ	ロ	グ	ラ	ム	に	て	参	照	す	る	D	B	を	新	パ	ッ	ケ	ー	ジ	と	
	同	じ	D	B	と	し	た	場	合	、	新	パ	ッ	ケ	ー	ジ	の	D	B	に	カ	ス	タ	マ	イ
	ズ	が	発	生	し	た	時	に	コ	ン	パ	チ	ビ	リ	テ	ィ	を	保	て	な	く	な	る	。	そ
	う	な	る	と	外	付	け	プ	ロ	グ	ラ	ム	に	対	し	、	個	々	の	対	応	が	必	要	と
	な	り	、	ラ	ン	ニ	ン	グ	コ	ス	ト	の	増	加	と	な	る	た	め	だ	。				
	私	は	、	我	社	の	D	B	ス	ペ	シ	ャ	リ	ス	ト	に	、	項	目	の	追	加	や	レ	
	イ	ア	ウ	ト	変	更	に	柔	軟	に	対	応	で	き	る	エ	ン	テ	ィ	テ	ィ	構	成	の	設
	計	と	、	一	時	的	に	新	パ	ッ	ケ	ー	ジ	の	D	B	に	つ	な	が	ら	な	い	場	合
	で	も	独	立	し	て	稼	働	が	行	え	る	対	応	を	依	頼	し	た	。					
	こ	の	2	つ	の	開	発	手	法	に	つ	い	て	も	A	市	に	十	分	な	説	明	を	行	
	い	、	了	解	を	得	る	こ	と	が	で	き	た	。											
	ウ	ー	2	・	成	果	と	今	後	の	改	善	点												
	そ	の	後	、	設	計	、	製	造	、	テ	ス	ト	と	問	題	な	く	進	捗	し	、	無	事	
	合	併	当	日	を	迎	え	た	。	外	付	け	プ	ロ	グ	ラ	ム	に	関	し	て	も	何	と	か



全	て	の	機	能	を	合	併	日	当	日	ま	で	に	間	に	合	わ	す	事	が	で	き	た	。	
	そ	の	後	、	5	年	が	過	ぎ	、	新	パ	ッ	ケ	ー	ジ	の	標	準	機	能	に	対	し	
3	回	の	仕	様	変	更	が	発	生	し	た	が	、	外	付	け	プ	ロ	グ	ラ	ム	に	大	き	
く	影	響	の	で	る	案	件	に	は	発	展	し	て	い	な	い	。	当	然	、	ラ	ン	ニ	ン	
グ	コ	ス	ト	も	予	定	し	て	い	た	額	に	納	ま	っ	て	い	る	。						
以	上	を	考	慮	し	て	も	、	今	回	の	外	付	け	プ	ロ	グ	ラ	ム	の	対	応	は	評	
価	で	き	る	と	考	え	て	い	る	。															
	し	か	し	、	ま	だ	課	題	も	あ	る	。	今	回	の	パ	ッ	ケ	ー	ジ	は	、	我	社	
の	関	連	会	社	の	製	造	で	、	あ	る	程	度	仕	様	が	公	開	さ	れ	て	い	た	た	
め	柔	軟	に	対	応	す	る	事	が	で	き	た	。	も	し	、	他	の	パ	ッ	ケ	ー	ジ	を	
導	入	し	て	い	た	ら	こ	う	も	う	ま	く	は	い	っ	て	い	な	か	っ	た	だ	ら	う	。
	今	後	は	、	思	わ	ぬ	追	加	作	業	が	発	生	す	る	場	合	に	備	え	、	要	件	
定	義	工	程	ま	で	は	委	任	契	約	と	し	、	要	件	定	義	以	降	を	請	負	契	約	
と	す	る	な	ど	、	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	途	中	の	追	加	要	求	に	対	し	て	コ	ス	
ト	面	で	も	柔	軟	に	対	応	で	き	る	よ	う	に	努	め	た	い	。						
以	上																								

# 論文添削結果

2010.03.23 (株) テレコムリサーチ  
添削者：佐藤 創

## 【添削情報】

論文提出者：●●●●●様  
問題 : H 2 1 年度 問 3

## 【免責事項・その他】

本添削結果は、添削者個人の判断によるものであり、所属する会社や組織を代表する意見ではございません。また、本添削結果に即したからといって試験の合格を保証するものではありません。本添削結果の使用の結果生ずるあらゆる損害や被害について添削者は免責されるものとします。本添削結果の著作権は添削者に帰属します。

## [目次]

1. 論文見出し構成の例
2. 論述すべき内容
3. 添削結果
4. 講評
  - (1) 添削結果の根拠について
  - (2) 講評の詳細
  - (3) 総評
5. 今後の学習に関するコメント

## 1. 論文見出し構成の例

以下に添削者が考える、本問題の見出し構成の例を示します。

1. 私が携わったプロジェクトの概要
  1. 1 プロジェクトの特徴
  1. 2 採用したパッケージと採用目的
2. 外付けプログラムの開発
  2. 1 外付けプログラムの開発が必要となった理由
  2. 2 利用部門との合意
  2. 3 開発した外付けプログラムの概要
3. 外付けプログラム開発時の工夫
  3. 1 業務パッケージの採用目的を達成するための工夫
  3. 2 工夫の成果、及び今後の改善点

## 2. 論述すべき内容

以下に添削者が考える、問題文から読み取れる題意と、求められる論述内容について、1. 論文見出し構成例に沿って示します。

見出し	論述すべき内容	備考
1. 1	①プロジェクトの特徴、あなたの立場、求められる要件などを明記。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクト概要、プロジェクト体制</li> <li>・工期、工数、契約内容、担当工程など</li> <li>・あなたの立場・役割</li> <li>・プロジェクトの制約事項・条件など</li> </ul> ⇒業務パッケージの採用が適切だと想定できるようなプロジェクトの特徴や制約であること	
1. 2	①どんな業務パッケージを採用したか（例：会計システム、販売システムなど）について述べられていること ②業務パッケージ採用目的について具体的に述べられていること ⇒業務パッケージ採用目的が、プロジェクトの背景や特徴を踏まえた内容であること。	
2. 1	①外付けプログラムが必要となった理由の根拠が適切だと考えられる内容であること ②外付けプログラムの開発がプロジェクトに与える影響（業務パッケージ採用目的が達成できなくなるなどの影響）について検討していること。	
2. 2	①利用部門の利害と業務パッケージ採用目的とをうまく調整していることが伺える内容であること ⇒プロジェクトマネージャとしての交渉能力・調整能力が伺える内容であること。 ②外付けプログラムの開発を最小限に抑え、業務パッケージの標準機能を最大限適用するために、利用部門と合意した内容及び経緯について述べられていること。	
2. 3	①開発する外付けプログラムの概要について簡潔に述べられていること	

3. 1	①業務パッケージ採用目的を阻害する可能性があることを把握し、その状況を回避するために適切な工夫をしたことが伺える内容であること	
3. 2	①工夫の結果と、今後の改善点について、前述までの内容と矛盾なく述べられていること	

### 3. 添削結果

添削者が考える論文評価結果を、A～Dランクに分けて示します。合格はAランクのみです。

評価ランク	内容	判定
A	合格水準にある	合格

※A～Dランクの評価内容は以下の通りです。

- A：合格水準にある
- B：合格水準にあと一步である
- C：内容が不十分である
- D：出題の要求から著しく逸脱している

添削者が考える、各種の詳細な評価項目について、それぞれA～Dランクを示します。

評価項目	評価基準	評価ランク	内容
題意の適切な盛り込み	設問や問題文で求められる題意が適切に盛り込まれていること	A	合格水準にある
論理性	論述に根拠があり、論理的な内容になっていること <ul style="list-style-type: none"> <li>・行動や考えの背景として、経験や知識、分析結果に裏付けられた根拠が論述されていること</li> <li>・行動した結果やプロジェクトの顛末を書いただけの論文になっていないこと</li> <li>・論述が、具体的・定量的で、かつ論理的であること</li> </ul>	A	合格水準にある
プロマネの創意工夫	プロジェクトマネージャとしての創意工夫・判断基準が盛り込まれていること <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクトマネージャらしい総合的な考え方（創意工夫）を論述していること</li> <li>・プロジェクトマネージャの役割や責任を理解した上で、適切な行動等について論述していること</li> <li>・専門用語などは本来の意味や目的を理解して用いていること</li> </ul>	A	合格水準にある
文章表現	文章表現が適切で、かつ理解しやすい文章であること <ul style="list-style-type: none"> <li>・論文としてふさわしい文章表現であること</li> <li>・文章の内容が理解しやすいこと</li> <li>・助詞などの用法に誤りがないこと</li> <li>・誤字脱字がないこと</li> </ul>	A	合格水準にある

## 4. 講評

添削者が考える講評について示します。

### (1) 添削結果の根拠について

評価ランクがAである理由は以下です。

#### 1. 題意の適切な盛り込み

題意はすべて適切に盛り込まれており評価できる。

#### 2. 論理性

プロマネの考えやその根拠について明確に述べられており評価できる。

①稼働日までに必要な機能とそうでない機能の関係について、もう少し説明がほしい。

#### 3. プロマネの創意工夫

追加機能の要請に対して、創意工夫で対応していることが読み取れる。特に問題はない。

#### 4. 文章表現

一部文言を適切にしたほうがよい箇所があるが、基本的には問題ない。

①文言を変更したほうがよい箇所がある。

以下に詳細の講評と、総評を示します。

### (2) 講評の詳細

詳細講評については、論文の流れに沿って設問アから順に説明させていただきます。説明の内容が、(1) 添削結果の根拠 のいずれに相当するのかを各説明に示します。ただし、文章表現に関する指摘は最後にまとめて行います。

なお、講評中で例文を示すことがあります。あくまでも参考までとして頂ければ幸いです。もちろん例文をそのままご利用されること自体には全く問題はございません。それによる「文字数の配慮」、「論文の流れとの整合性」等々につきましては十分ご考慮いただけますよう、宜しくお願い申し上げます。

#### (ア) [評価項目：論理性 指摘番号：①]

「イー2. 利用部門と合意した経緯と内容」において、稼働日までに必要な、外付けプログラムで実現する追加機能がどの程度あったのかをもう少し説明しておく、なお良かったかと思えます。本節では以下に順で述べられています。

- (1) 合併当日までに必要な追加機能がある。
- (2) すべて外付けプログラムとして開発すると、納期、予算が間に合わない。
- (3) パッケージ標準機能でいくつかは対応できる。
- (4) その他の機能は段階的リリースを行う。

この流れだと、合併当日までに必要な追加機能についても段階的リリースの対象になって

いると読み取れます。

本来述べたかったのは「合併当日までには必要のない機能だが、外付けプログラムとして開発が必要な機能については、段階的リリースで稼働後に順次リリースする」といった内容だと思います。その点を明確に述べておくことが必要だったと思います。

(イ) [評価項目：文章表現 指摘番号：①]

(1)

【設問】イ

【ページ】2ページ

【行数】7行

【指摘内容】追加機能であることを明確に述べてほしい

【指摘箇所】合併当日までに稼働しなければならない機能がいくつかある

【修正例】合併当日までに稼働しなければならない追加機能がいくつかある

(2)

【設問】イ

【ページ】2ページ

【行数】13行

【指摘内容】誤字

【指摘箇所】まず、合併当時までに

【修正例】まず、合併当日までに

(3)

【設問】ウ

【ページ】3ページ

【行数】14行

【指摘内容】適切な文言に

【指摘箇所】プロジェクト途中の追加要求に対して

【修正例】プロジェクト途中の開発規模増大に対して

プロジェクト途中の開発スコープの増加に対して

※それほど神経質になることではありませんが、論文の内容からすると、顧客からの機能追加要求ではなく、開発側の当初予測では顧客要件を満たせなかったための開発規模の増大だと思います。開発側の想定ミスなので、言葉を正しくするならば、修正例のような内容になるのではないかと思います。

### (3) 総評

以下に本論文を振り返り、良かった点や指摘内容のまとめをさせていただきます。

おめでとうございます。当方の添削では、合格水準にあると判断致します。

今回の論文は前回と比べて論理的につじつまの合う内容になっており、この点が評価できます。以前から題意の適切な盛り込みや創意工夫、文章表現では問題がありませんでしたので、今回は合格水準にあると判断致します。

当初の論文と比較すると、プロマネの計画力や、どんな事を考えて交渉に臨んだのか（プロマネの提案内容）、それらがなぜ適切なかの根拠、がきちんと盛り込まれていると感じます。

また、文章表現も主張や根拠が明確であり、大変読みやすいものになったと考えています。

## 5. 今後の学習に関するコメント

何度も論文の修正をして頂きまして、大変お疲れ様でした。今回の添削で学ばれたこと（以下に参考までにリストします）を今後の学習にも生かして頂ければ、本番試験でも合格論文を書くことができると考えます。

- ・問題文で求める内容（題意）に的確にこたえる論文づくり。題意と関係のないことは簡潔に。
- ・プロマネの考えや根拠を中心に論文を構成する。
- ・プロマネはすべて計画ありき。何を考えどう計画したかを、行動する前に論述する。
- ・1文1文を、主張の伴った読みやすい文章にする。1文にいろんなことを詰め込みすぎない。

それでは、本番試験でのご健闘を祈念させていただきます。

以上